

小中高をつなぐ理科

小中をつなぐ理科に関しては、初任が附属中学校であったことで、広範囲の小学校から生徒が集まってきたために、自然と意識し、自分なりに研究を行ってきた。

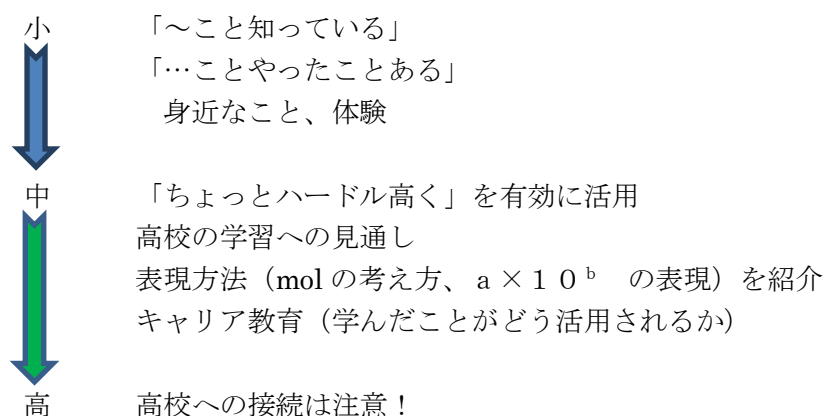
選択理科が盛んに行われていた頃、様々な取り組みを行った。発展コースなど興味関心が高い生徒向けに、中学校卒業後を意識した内容を取り入れた時期もあった。この頃から、中学校と卒業後（高、大）を意識した研究を行ってきた。

中学校で取り組んだことが、高校や高校卒業後にどのような影響をおよぼしているか等を解明するために卒業生へ向けた追跡調査を行った。（理科教育学会等で発表）

しかし、結論は、中学生の頃のことを忘れてしまっている生徒が多かった。彼らからは、「中学校では多くの体験や実験観察をしてほしい」という声が多かった。

現在の自論は、「小中学校の取り組みは、調査を行っても顕著なデータは出ないだろうが、表面に出てこない何かが影響をおよぼしているだろう」である。従って、中学生を指導している今、先生がいかに生徒に対しての思いを持ち、熱心に指導するかではないかと考えている。

先日、小中高の理科のつながりを整理してみた。



進学に理科が必要ではなく、これで理科が最後の生徒が多い高校

日常の身近な例をたくさん示しながら
中学校で習ったよね
先生の腕の見せ所

工業高校

中学校の知識を基盤に定量的（数字）な指導
資格試験や実業で実際に役に立つ
理科の有用性が最も感じられる
理科教師冥利につきる

商業高校

商品の知識などに活用する場面が多い

大学で理科を使う生徒が多い高校

習ったという前提でそのまま進め（しかし）
必要に応じて中学校とのつながりにふれながら
進学校でも学力差があるので、先生のていねいな指導が大切になろう

まとめとして、小中高連携、内容の系統性は、仕組み（学習指導要領）上のことよりも、むしろ我々理科教員へのメッセージであろう。やはり、毎時間の授業づくりにかかってくる。